

でんでんむし・かたつむり・まいまい観察会

藤田 英忠（東金市）

日 時：2016年6月19日（日）10時30分～12時 天気：曇り

参加者：大人22名、子ども15名 計37名

担当指導員：藤田英忠、遠藤登志子

今年のカタツムリ観察会は例年になく多い37名の参加者であった。子どもを連れてこられたお父さんお母さんが特に多かった。非常に賑やかな、楽しい会になった。観察会を積み重ねてきたおかげだ。一方竹林や老木の伐採が進み、以前の谷津田環境が維持されにくくなってきていることも痛感する。特に、入り口近くの竹林がそうだ。大きく伐採され明るくなった。前回の《ウグイスの声を》のときも書いたが、竹林が大好きなウグイスがいなくなってきた。竹が大好きなニッポンマイマイもほとんど見つからなかった。一昨年までは大草といえどニッポンマイマイがこの竹林周辺で観察されたものだが…。ニッポンマイマイは小さな美しい、ピラミッド型をした白っぽいマイマイだ。ニッポンと名がつくから、ぜひ知っておいてもらいたいマイマイだった。ニッポンマイマイと遠藤リーダーが坂月川ビオトープから持ってきてくれたコハクオナジマイマイと比較しながらどちらが美しいかを聞いてみたかった。持ってきてくれたコハクオナジマイマイは少し黄色っぽい透明感のある小さなそれはそれは美しいマイマイだった。でもこのマイマイは、最近南の九州地方から北上してきたマイマイで、南房安房神社あたりに上陸したようだ。上陸したといえど変だが、マイマイは船で運ばれることがよくある。今のところ外来種である。

ヒダリマキマイマイでもう一つ話題が見つかった。大草のヒダリマキマイマイは今回は幼体ばかりであったが、親はかなり大型だ。しかし石嶋さんが坂月川ビオトープで観察され、遠藤リーダーがこの日に持ってきてくれた坂月川採集ヒダリマキマイマイも従来の大草の普通のヒダリマキマイマイとは違うようだ。美しい殻と軟体部、殻の体層が膨れその上の次体層が薄い中型のマイマイであった。



コハクオナジマイマイ

坂月川ビオトープの
ヒダリマキマイマイ

石嶋基次氏撮影



マイマイはその美しさから世界中にマニアがいる。まだまだ新発見がありそうだ。標本にしないで現地で生態写真を撮ることを勧める。採集しても写真を撮って現地に返すこと。この坂月川のヒダリマキマイマイは今後種の同定を何とかしてみたい。

この日観察された貝は、ミスジマイマイ、ニッポンマイマイ（稚貝）、ヤマナメクジ、ヒダリマキマイマイ（幼貝）、ヒカリギセル、ヤマナメクジ、オオタニシとその胎貝、他リーダーが持参したヤマタニシ、大型ヒダリマキマイマイ、坂月川ヒダリマキマイマイ、ナメクジ、など。